

I 急病のときの対応

14. じんましんが出たとき

家庭での処置

1. せまい範囲であれば冷やす。
2. 刺激の強い食事や体が温まる食事を避ける。
(辛い物、脂っこいもの、乳製品、チョコレート、ココアなど)
3. 風呂は控える。
4. 家庭で持っていれば痒み止めの軟膏を塗る。

その後の対応



家庭で経過をみる、又は翌日に病院受診

範囲もせまく痒みの程度も軽く他の症状がない。



その時点で病院受診

広範囲の場合(体全体に)。かゆみが強い。下痢、腹痛を伴う。咳が出たり呼吸が早くなる。



緊急に病院受診、救急車要請

呼吸困難の症状がある。

* じんましんで最も気をつけなければならないのは、急性喉頭浮腫といって呼吸困難になる場合です。ですから、呼吸の状態がいつもと違うと思ったら早めに病院を受診することをすすめます。また、エピペンといってアナフィラキシーショックの時の注射を持っている場合、家族など周りの人もその使い方を知っておく必要があるでしょう。

家庭で見る時のポイント

じんましんの場合は1～3時間程度で消えてしまう物が多いので、痒いときは冷やすなどして様子を見ましょう。

じんましんの原因の4割は不明です。みんな食品のせいというわけではありません。乳児では卵白が原因のことも多いのですが、2才くらいまでに多くは改善します。

母の摂った食品が母乳を介して赤ちゃんに影響する事もありますが、非常にまれです。



じんましん



みずぼうそう